

分野・専門名：言語学

試験科目：言語学

【正解・解答例】

問1

以下の点を評価する。

- 最小対 (minimal pair)、準最小対 (near-minimal pair)、相補分布 (complementary distribution) の三手法への言及。
- 最小対の不在だけでは音素対立は否定されないことへの言及。
- 最小対と準最小対は二音 (または複数音) が音素であることを示すため、相補分布は二音が同一音素の異音であることを示すための手法であることへの言及。
- それぞれの手法の説明。例：「同一位置で一つの音だけが異なり、意味の違いを生む語の組 (最小対)」「各音が異なる環境にのみ現れ、その分布が一般的な規則で説明できる (相補分布)」。
- それぞれの手法の説明に際して以下のような例の提示。
 - sit [sɪt] v. sick [sɪk]
 - weather [wɛðə] v. measure [mɛʒə]
 - park [pʰɑ:k] v. spark [spɑ:k]

問2

まず (2a) が不自然なのは、(1a) (1b) の動詞「渡す」が三項動詞であるのに対して、(2a) の動詞「読む」は基本的に二項動詞なのに、主語、目的語に加えて「に」格の項を取っていることにその理由がある。(2a) が成立するためには、「読む」を「読んでくれる」という意味で解釈しなければならない。実際、「本」を「絵本」に変えると、この文の容認度が多少上がるが、それは、「読んでくれる」という解釈が導かれやすくなるからだと考えられる。

他方、(2b) については、対応する自動詞文 (2a) がそもそも不自然なので、受動文である (2b) も不自然ということになる。(2b) は、被害の受け身 (「母が本を読んだことが私にとって迷惑」という意味) として解釈する余地がないわけではないが、この文単独でそのように解釈することは難しい。

能動文と受動文のペアである (1a) (1b) は、同じ事態を別の視点から述べている。それに対して、(2a)、(2b) は、仮にこれらの文が成り立つとしても、(2a) は母から私への恩恵を表しているのに対し、(2b) は私が母に被った迷惑を表しているので、(2a) (2b) は同じ事態を表しているとは言えない。

問3

解答のポイント

- ・形式と意味が似ている単語を多く集めるだけでは不適切。
- ・同源語と思われる単語をできるだけ多く集め、それらの単語において規則的な音対応が見られることが最も重要。
- ・借用語ではなく同源語であることが重要。基礎語彙には借用が起こりにくいので、基礎語彙における規則的な音対応を重視する。
- ・補充形のような形態的に不規則な形式を共有していることも同系であることの根拠となりうる。

問4

(i)方言連続体

ある言語変種と別の言語変種が地理的に隣り合って分布し、相互の間に明確な境界線がなく、一方の言語変種から徐々に他方の言語変種に移り変わっている場合、それらの言語変種は互いに似ていて、相互に理解可能ということが起こる。この時、それらの言語変種全体を方言連続体と呼ぶ。ここで言う言語変種は、ある言語の方言のこともあれば、言語のこともある。また、方言連続体が広い範囲にまたがっている場合、その範囲の両端で話されている言語変種同士は、必ずしも互いに理解可能とは限らない。

(ii)コードの切り替え

実際の言語使用場面において、一つの言語あるいは言語変種のみが使われるのではなく、発話の途中で、その場面の社会的な文脈や会話状況により、それまで使われていた言語あるいは言語変種とは別の言語、言語変種が用いられることを指す。同じ発話の中で、複数の言語あるいは言語変種が何度も切り替えられることもある。コードの切り替えには会話の参加者間の関係性を変える働きがあり、話し手が聞き手との間で言語的なアイデンティティの共有を図る等の目的で用いられることが多い。

(iii)主要部

文の構成素構造において、ある構成素全体と、その構成素に含まれる語のうちの一つが同じ統語的な機能、役割を持っている時、その語のことをその構成素の主要部と言う。例えば、名詞と形容詞が構成素をなしている時、構成素全体と名詞は統語的な機能、役割が同じなので、その構成素の主要部は名詞、構成素全体は名詞句ということになる。また、主要部以外の語は従属部と呼ばれる。主要部と従属部との間の統語的な関係が接辞によって表示される場合、その接辞は主要部に付加される場合と従属部に付加される場合がある。

(iv)広母音

舌の位置が最も低く、口を大きく開いて発音される母音。開母音と呼ばれる場合もある。[a], [ɑ], [ɒ]などが例。後舌・非円唇[a]は英語 father、後舌・円唇[ɒ]は英語 lot

(英) 等にある。広母音には前舌・円唇の[æ]もある。英語に用いられる[æ][ʌ]等は、舌の位置が広母音より高い。

分野・専門名：言語学

試験科目：言語学

【出題の意図】

問1

音声学・音韻論における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問2

文法論・意味論における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問3

歴史言語学における基礎的知識と基礎的分析能力を問う。

問4

言語学の術語の基礎的理解を問う。

分野・専門名： 応用日本語学

試験科目：

【正解・解答例】

問題 1

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 2

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 3

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

問題 4

内容面（専門知識を正確に理解しているか、問題の要件を満たしているか）、論述面（論理的な文章の構成になっているか、語彙や文法は適切に使用されているか）により、総合的に評価される。

分野・専門名： 応用日本語学

試験科目：

【出題の意図】

問題 1

応用日本語学における専門用語を正確に理解した上で、その要点を適切に説明できるかを問う。

問題 2

第二言語習得研究における対照研究の目的と方法について、「転移」と「干渉」の概念を理解した上で、適切に説明できるかを問う。

問題 3

日本語教育における AI の導入が、日本語学習に与える影響について、適切に説明できるかを問う。

問題 4

日本語教育におけるアチーブメント・テストについて、主観テストと客観テストの概念を理解した上で、適切に説明できるかを問う。